

野間清治顕彰会は今から七年前に産声をあげた。創立時に提唱された会の活動方針のもと、野間清治の命日に当たる十月十六日の献花式に授けられる野間文庫誌推進委員も定め、また郷土の先賢者を紹介する「ふるさとの風」六号の編集も最終校正の段階を過ぎ、近々に刊行の運びとなります。

更に別冊「郷土文芸選本」が加わり今年度は既に四号の企画に入っております。

文化講演会 展示 文化講演会 展示 文化講演会 展示

元火鳥 提唱者 野間清治 所の支援を受け

「地蔵堂」調査費補助 交付を受け

「郷土の先人を語る」講座も開催する

「ふるさとの風」編集も最終校正の段階を過ぎ、近々に刊行の運びとなります。

## 顕彰会に思う

会代表 竹田賢一

野間清治顕彰会活動の大きな柱の一つに「野間清治記念館建設」があります。次の目標は市制施行九十周年、建設社創業百周年を目前に「野間清治記念館建設」であります。

野間清治が市制施行九十周年

これがための資料の保管整理場所として、郷土市教育委員会のご理解により南小学校の空き教室を拝借しての意気は大変に、野間清治顕彰会の様々な活動を推進するの場となることを願っています。

野間清治顕彰会の様々な活動を推進するの場となることを願っています。

野間清治が市制施行九十周年を目前に「野間清治記念館建設」であります。

野間清治が市制施行九十周年を目前に「野間清治記念館建設」であります。

野間清治が市制施行九十周年を目前に「野間清治記念館建設」であります。

## 野間清治生涯の地論争

—果たして教員宿舎は何処か?—

図書部長 大瀬 祐 太

大日本雄辯会議社の創業者で日本の雄辯王といわれた野間清治は、群馬県山田郡新宿村現在の山田郡山田町新宿に於いて、二月十七日、父好雄、母ふゆの子として生まれた。今年四月十九日に、野間清治顕彰会を以て、同社友会の一形式で山田郡山田町新宿村に「野間清治記念館建設」であります。

「野間清治生涯の地論争」が立てられた。このことをきっかけに野間清治の生涯の地が何処か調べることとなった。野間清治自身が書いたといわれる「わが平生」によれば、新宿村の新宿(小)学校教員宿舎で、おそらく父母から聞いていたのである。あくまで生まれたところは教員宿舎である。

では、この教員宿舎が何処に建っていたのか、また、どのような建物であったのか、今日と比べて知るすべもない。ただ、野間清治の唯一、公の記録としての戸籍原本(原戸籍)から、生涯の地を考へると、群馬県山田郡新宿村九七七番地(前戸主 野間直樹、戸主 野間好雄)と新宿村九七七番地が有力な手がかりとなる。その後、明治二十二年四月一日、新宿村は北隣の親生町と合併し、新たに群馬県山田郡親生町として誕生する。その間に野間清治は転居したのであるが、戸籍原本(改製原戸籍)は「群馬県山田郡親生町大字新宿村五百五十七番地 前戸主 野間好雄、戸主 野間清治」とあり、「父好雄死亡二因月大正二年一月四日戸主ト為ル同月二十八日届出同日受付」とある。

地元での言い伝えによれば、新宿小学校の前身である仮校舎時代の住所はどこか、野間清治自身もいかに詳伝の「野間清治伝」によればの話であるが、それは、小島方吉という人の持家であった建物を改造したもので「新建しての建物であった」といわれる。新宿村九七七番地にあつた。

これは、フリーライターの小林康徳氏の指摘するところであり、野間清治の同級生であった大隈重幸の証言であるとして、七七七番地の親生町を論ずるに比して現在の親生町新宿村小學校から考へるとかなり遠方になってくる。昭和三十年代に発行された「親生町史(中巻)四八六ページ」には、「新宿村七七九番地常尾林蔵所有の民家を借用」とあり、小林氏によるとこの資料が見出せない」と指摘している。

地元、野間清治研究では第一人者といわれ、この春「野間清治コレクション展」を個人で開催した桑原昭二氏は「我々が